

## 課題別副専攻「平和学」の御案内

- 「副専攻」は、各学部の専攻課程に加えて修得することのできる**追加的な専攻**です。
- **どの学部**の**学生**も修得することができます。
- 副専攻の修得は、事前の申請等必要ありません。  
最終的に**卒業時に認定を申請**します。かつ、修得は、主専攻課程に対して追加的なものであり、その修了は必須でもありません。そのため、各自が、**卒業までの間に自由に修得を試みることができます**。  
なお、就職活動の際のアピールなどに必要な**3-4年生には「副専攻履修証明書」を発行**します。

1

## ■ 課題別副専攻「平和学」の修了要件

- **必修科目**の履修：「**平和学入門**」(3年次までに)、「**平和学3年次演習**」、「**平和学総合演習**」(4年生)、「**修了ペーパー**」(1万字) (3年次演習必修は2013年度入学生から)
- 「**コア科目**」のうち属性「A」を2科目以上、同「B」を2科目以上
- 以上を含めて、課題別副専攻「平和学」の科目の単位取得(課題別副専攻「平和学」のための**Qコード科目**及びその他のコードの科目で、課題別副専攻「平和学」の科目として指定されている科目：**24単位以上**)
- 卒業時の**総取得単位数**が、所属学部の要件(標準125単位)よりも**12単位以上多いこと**。
- 卒業までに履修登録した全科目についての**GPAが2.5以上**(全科目の平均得点が75点以上に相当。履修を途中で放棄した科目のGPは0になるので要注意。)

2

- 課題別副専攻「平和学」のためのQコード科目は、「平和学」の修得を目指していない学生の履修も歓迎します。

◎但し、履修希望者が定員を超えるような場合は、「平和学」の修得を目指している学生を優先します。

◎また、Qコード科目を卒業に必要な単位数に算入するかどうかは、それぞれの学部が決めています。この点については、所属する学部の学務係等で確認して下さい。

- 昼休みの科目は昼食持ち込み可能です。(平和学入門、平和学3年次演習、平和学総合演習)
- 2013年度には、3年生向け演習科目を新設しました。
- 課題別副専攻「平和学」オリジナル・ウェブサイト：  
<http://www.iess.niigata-u.ac.jp/~peace/>

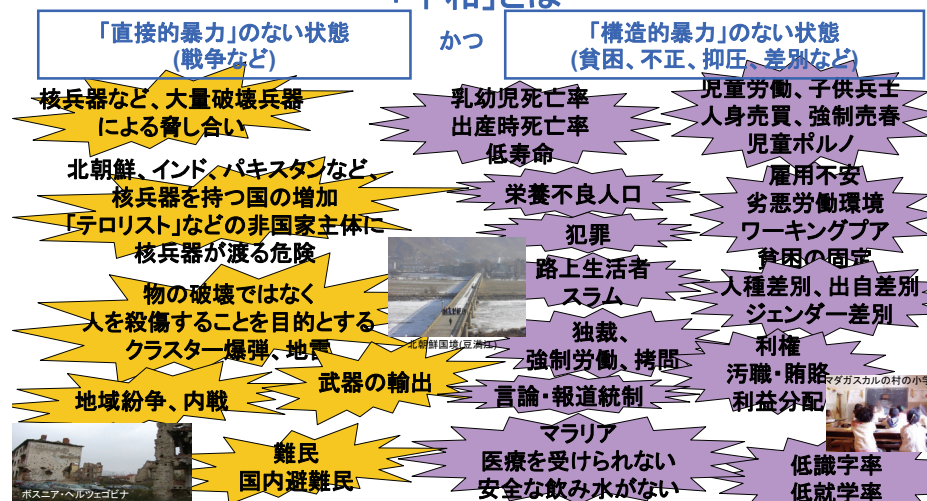
3

## 課題別副専攻「平和学」

平和、人権、開発

安全で、みんなが穏やかに暮らせる社会を考えてみよう。

「平和」とは



■プログラムの名称 「平和学」

概要	<p>「平和」とは単に「戦争のない状態」（消極的平和）ではなく、人間が自由に能力を発揮できる状態（積極的平和）である。しかし、世界各地では戦闘が続いており、飢餓・貧困・人権侵害・社会的差別等によって、人びとが平穏に暮らせない状況が存在する。積極的平和の実現には、人権の尊重、経済的・政治的安定、安全な環境等々が必須条件となるため、平和、人権と開発の問題は深く関わっている。</p> <p>この課題別副専攻では、幅広い分野にわたる広義の平和問題を多角的に理解し、積極的平和に関し主体的に考え、行動できる人材の育成を目指す。</p>		
ねらい	<p>平和、人権と開発の問題は深く関わっている。この課題別副専攻では、幅広い分野にわたる広義の平和問題を多角的に理解し、積極的平和に関し主体的に考え、行動できる人材の育成を目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消極的平和を阻害する現状を認識し、その原因を考察できるようになる。</li> <li>2. 積極的平和を阻害する「構造的暴力」の現状を認識し、その原因を考察できるようになる。</li> <li>3. 平和・人権・開発問題の相互連関を認識できるようになる。</li> <li>4. 上記の認識・考察を踏まえ、積極的平和に向けて主体的に行動できるようになる。</li> </ol>	副専攻 委員会委員	○宮田 春夫 山崎 健 渡辺 豊
認定条件及び評価の方法	<p><b>【各プログラム共通の認定条件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本副専攻プログラムの「入門科目」を、第3年次末までに履修し、その単位を修得していること。</li> <li>・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に12単位以上を加えたものであること。</li> <li>・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。</li> <li>・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。</li> </ul> <p><b>【各プログラム独自の認定条件等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コア科目のうち、属性区分「R」の科目（必修科目）を全て習得していること。</li> <li>・コア科目のうち、属性区分「A」の科目から、2科目（4単位）を修得していること。</li> <li>・コア科目のうち、属性区分「B」の科目から、2科目（4単位）を修得していること。</li> <li>・修了ペーパー（1万字程度）を提出すること。</li> <li>・「平和学総合演習」は最終年次に履修しなければならない必修科目である。</li> <li>・コア科目のうち、「平和を考えるA」及び「平和を考えるB」は導入のための科目であり、受講するのが望ましい。</li> <li>・履修条件については、シラバス記載の各担当教員の指示に注意すること。</li> </ul>		
プログラムの紹介	<p>戦争だけでなく、貧困、不正、差別、抑圧などもなくすことを目指す平和学</p> <p>「平和」とはなんだろうか？日本に暮らしているとこの言葉はあまり気にならないかもしれませんが。しかし、世界では、今この時も、アフガニスタンを含め、しかし、あまり知られていない多くのところでも、非常に多くの人が、国家間の戦争や国内の内戦で命を落とし、傷ついています。第二次世界大戦での死者は5千万とも6千万とも言われますが、その終結の1945年から1995年までの60年間だけで、既に、ラテンアメリカ・カリブ地域で70万人近く、ヨーロッパで13万人近く、中近東・北アフリカで100万人近く、サハラ以南アフリカで420万人余り、中央アジア・南アジアで250万人余り、東南アジア・東アジアでは、朝鮮戦争の300万人、ベトナム戦争の200万人など、1千万人近くが亡くなっており、世界で1,800万人余りが亡くなりました。</p> <p>第2次世界大戦では、アジア・太平洋の諸国民に大きな犠牲を出し、日本でも、非戦闘員を含め300万人以上が死亡するという大変悲惨な経験をしました。その末期に広島と長崎に投じられた核兵器は、核戦争の恐怖を与え続けています。しかも、核兵器を持つ国が増えてしまいました。今なお、20,000発以上の核兵器が存在し、何回も人類を絶滅できる威力を保持しています。昨年から、核の無い世界をめざす機運が世界に大きくひろがってきていますが、この時、被爆国である日本の責務は、大きなものがあります。核廃絶の課題は、平和を考える上での原点の一つです。</p> <p>戦争のない状態＝「平和」と考えるひが多いと思います。しかし、たんに戦争がない状態だけでは「平和」とはいえません。戦争がなくても、貧困、不正、差別、抑圧などが社会にある限り、人々は安心して暮らすことができず、これは「平和」ではありません。ノルウェーのヨハン・ガルトゥングは、貧困・差別・抑圧などを「構造的暴力」、直接的暴力だけでなく構造的暴力もない状態が「平和」なのだを定義しました。そして、世界の至る所に、そのような構造的暴力が見られます。日本社会にも、貧困から抜け出せない人たち、社会的出身や人種・国籍による差別、ジェンダー差別など、構造的暴力が見られます。日本国内にも「平和」でない状況が少なくありません。</p> <p>課題別副専攻「平和学」では、基礎的課題に関する科目、直接的暴力に関する科目、構造的暴力に関する科目、地域的課題に関する科目、そして実践的課題に関する科目を開講して、世界や日本で人びとの平穏な生活が脅かされる状況を直視し、戦争のないことに加えて、人間の尊厳を回復できる国際社会の条件を広い観点から考えます。「平和学」の履修により、世界の人たちのことを自分に関わるものとして考えられる、21世紀にふさわしい国際人になってもらいたいと願っています。</p> <p>2013年度には、2年次以降の必修科目として、「平和学3年次演習」を新規に開講し、1年次の「平和学入門」と4年次の「平和学総合演習」及び「平和学修了ペーパー」を円滑につなぐ演習を行います。また、工学部の技術者倫理に関する科目、人文学部の社会福祉学、農学部の国際的な食糧確保に関する科目、法学部の国際紛争処理法、Gコードの「国際教養演習」を新たに「平和学」科目として指定します。なお、一部の科目をQコード科目からGコード科目にし、最終的に「平和学」を修得しない場合にも卒業に必要な単位数に算入されるようにします。</p> <p>副専攻「平和学」では、次のところにオリジナル・ウェブサイトを設けています。  <a href="http://www.iess.niigata-u.ac.jp/~peace/">http://www.iess.niigata-u.ac.jp/~peace/</a></p>		

# 「平和学」

## ■授業科目リスト (掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。)

※H・T (オナーズ・タイム) : 11時55分~12時45分

属性区分 R : 必修科目 / \*1 : 最終年次に履修する / \*2 : 導入のための科目であり、受講するのが望ましい。

A : 選択必修科目 / B : 選択科目 / C : 展開科目 \*かからのそれぞれの組の科目については、重複履修しても1科目のみを修了に必要な単位に算入する。

分類	属性	開講番号	開講科目名	単位	学期	曜	限	形式	授業担当者	所属	分野	水準	
1	コア	R	130Q9031	平和学入門【入門科目】	1	第1学期	月	H・T	講義	里見 佳香	非常勤講師	99	03
2	コア	R	130Q0059	平和学3年次演習 (H25年度入学生から履修)	1	通年	火	H・T	演習	宮田 春夫 山崎 健 渡辺 豊	国際センター 人社・教育系(教) 人社・教育系(院実法)	99	04
3	コア	R*1	130Q0032	平和学総合演習	1	第2学期	木	H・T	演習	宮田 春夫 山崎 健 渡辺 豊	国際センター 人社・教育系(教) 人社・教育系(院実法)	99	05
4	コア	R*1	130Q0049	平和学修了ペーパー	2	第2学期	時間外			宮田 春夫 山崎 健 渡辺 豊	国際センター 人社・教育系(教) 人社・教育系(院実法)	99	05
5	コア	A	130Q0050	平和と現代の国際(グローバル)安全保障論 Peace and Contemporary Security Studies	2	第1学期	火4(一部集中)	講義	高橋 敏哉	非常勤講師	99,35	04	
6	コア	A	130Q0033	開発と平和	2	第1学期	集中講義	講義	蓮井 誠一郎	非常勤講師	99	03	
7	コア	A	休講	NGOから見る国際関係-グローバル市民社会への視座	2			講義			99,35	04	
8	コア	A*2	130G3237	平和を考えるA	2	第1学期	水	3	講義	谷本 盛光・他	自然科学系(理)	75	03
9	コア	A	130G3703	平和を考えるin新潟 (開講日時変更の可能性あり)	2	第2学期	水	3	講義	粟生田 忠雄・他	自然科学系(農)	75	03
10	コア	A*2	130G3730	平和を考えるB	2	第2学期	水	3	講義	山崎 健	人社・教育系(教)	75	03
11	コア	A	130L1001	憲法基礎I	2	第1学期	金	3	講義	成嶋 隆	非常勤講師	34	03
12	コア	A	130L1002	憲法基礎II	2	第2学期	水	2	講義	上村 都	人社・教育系(法)	34	03
13	コア	A	130L1608	国際関係論	2	第2学期	金	3	講義	黒田 俊郎	非常勤講師	35	03
14	コア	B	130L1312	国際法概論	2	第2学期	木	1	講義	渡辺 豊	人社・教育系(院実法)	34	03
15	コア	B	130L1306	国際人権法	2	第1学期	月	1	講義	里見佳香	非常勤講師	34	04
16	コア	B	休講	International Relations and International Law, Basic	2			講義			34	03	
17	コア	B	130Q0035	障害者の人権	2	第1学期	集中講義	講義	川島 聡	非常勤講師	99	04	
18	コア	C	130G3217	国際開発協力(環境と開発演習)*a	2	第1学期	木	1	講義	宮田 春夫	国際センター	75,35	05
19	コア	C	H24年度まで	国際開発協力演習(環境と開発)*a	2			演習			99	04	
20	コア	B	130G3204	比較地域社会学	2	第1学期	木	1	講義	佐藤 康行	人社・教育系(人)	75	03
21	コア	B	130S0003	科学・技術と社会	2	第1学期	月	1	講義	宮田 等・他	自然科学系(理)	16	03
22	コア	B	130L1801	マス・メディア論	2	第1学期	木	2	講義	吉田 和比古	人社・教育系(法)	35,38	03
23	コア	B	130E1221	アジア経済論I	2	第1学期	金	4	講義	溝口 由己	人社・教育系(経)	36	04
24	関連	B	130L1308	特殊講義(国際組織法)	2	第2学期	金	2	講義	熊谷 卓	非常勤講師	34	04
25	関連	B	130L1609	特殊講義(国際政治史)	2	第1学期	水	1	講義	神田 豊隆	人社・教育系(法)	35	03
26	関連	B	130L1607	特殊講義(比較政治)	2	第1学期	月	3	講義	真水 康樹	人社・教育系(法)	35	03
27	関連	B	休講	特殊講義(東アジア国際政治史)	2			講義			35	03	
28	関連	B	130H5137	社会学概説D	2	第2学期	月	5	講義	佐藤 康行	人社・教育系(人)	38	03
29	関連	B	130H3137	社会学概説D	2	第2学期	月	5	講義	佐藤 康行	人社・教育系(人)	38	03
30	関連	B	130H5427	現代社会論B	2	第1学期	月	5	講義	佐藤 康行	人社・教育系(人)	38	04
31	関連	B	130H3427	現代社会論B	2	第1学期	月	5	講義	佐藤 康行	人社・教育系(人)	38	14
32	関連	B	休講	社会学特殊研究D	2			講義			38	14	
33	関連	B	130G3216	国際開発協力論:「開発」とは何かI*b	2	第1学期	水	3	講義	宮田 春夫	国際センター	75,35	05
34	関連	B	H24年度まで	国際開発協力論:「開発」概念I*b	2			講義			99	04	
35	関連	B	130G3711	国際開発協力論:「開発」とは何かII*c	2	第2学期	水	3	講義	宮田 春夫	国際センター	75,35	05
36	関連	B	H24年度まで	国際開発協力論:「開発」概念II*c	2			講義			99	04	
37	関連	B	130G3218	国際開発協力論:「開発」とは何かIII	2	第1学期	水	1	講義	宮田 春夫	国際センター	75,35	05
38	関連	B	130G3710	人類共同体のための国際環境政策学	2	第2学期	水	5	講義	宮田 春夫	国際センター	75,35	04
39	関連	C	130G3956	開発途上国の環境と開発:事例研究	2	第2学期	集中講義	演習	宮田 春夫	国際センター	75	05	
40	関連	B	130G7055	経済学入門	2	第1学期	月	4	講義	佐藤 芳行	人社・教育系(経)	37	03
41	関連	B	休講	社会経済学入門	2			講義			37	03	
42	関連	B	130E1222	開発経済学	2	第2学期	金	4	講義	佐野 誠	人社・教育系(経)	36	04
43	関連	B	休講	人文社会情報論	2			講義			10	04	
44	関連	B	130L1007	行政救済法	2	第1学期	月	3	講義	今本 啓介	人社・教育系(法)	34	04
45	関連	B	休講	特殊講義(国際刑事法)	2			講義			34	04	
46	関連	B	130L1309	特殊講義(国際紛争処理法)	2	第1学期	金	3	講義	渡辺 豊	人社・教育系(院実法)	34	04
47	関連	B	130T2061	科学技術者の倫理*d	2	第1学期	木	1	講義	丸山 武男	非常勤講師	51	13
48	関連	B	130T3062	科学技術者の倫理*d	2	第1学期	木	1	講義	丸山 武男	非常勤講師	51	13
49	関連	B	130T4049	科学技術者の倫理*d	2	第1学期	木	3	講義	丸山 武男	非常勤講師	51	13
50	関連	B	130T2062	科学技術者の倫理*d	2	第1学期	木	3	講義	丸山 武男	非常勤講師	51	13
51	関連	B	130T3063	科学技術者の倫理*d	2	第1学期	木	3	講義	丸山 武男	非常勤講師	51	13
52	関連	B	130T4050	科学技術者の倫理*d	2	第1学期	木	3	講義	丸山 武男	非常勤講師	51	13
53	関連	B	130T6090	土木技術者倫理*d	2	第1学期	木	1	講義	丸山 朝夫・他	非常勤講師	28	04
54	関連	B	130T1059	技術者倫理*d	2	第1学期	金	2	講義	山之内 則雄	非常勤講師	28	04
55	関連	B	130T7036	技術者倫理*d	2	第2学期	集中講義	講義	山内 健・他	自然科学系(工)	54	14	
56	関連	B	130T4024	社会福祉論	2	第1学期	木	4	講義	林 豊彦・他	自然科学系(工)	38	15
57	関連	B	130T2065	法と情報社会	2	第2学期	集中講義	講義	佐藤 信行	非常勤講師	10,28	04	
58	関連	B	130T3064	法と情報社会	2	第2学期	集中講義	講義	佐藤 信行	非常勤講師	10,28	04	
59	関連	B	130T4047	法と情報社会	2	第2学期	集中講義	講義	佐藤 信行	非常勤講師	10,28	04	
60	関連	B	130H5560	社会福祉学	2	第1学期	集中講義	講義	鍾 家新	非常勤講師	38	04	
61	関連	B	130H3560	社会福祉学	2	第1学期	集中講義	講義	鍾 家新	非常勤講師	38	04	
62	関連	B	130G3219	International Relations in the Asia-Pacific Region*e	2	第1学期	水	4	講義	張 雲	国際センター	75,70	03
63	関連	B	休講	International Relations in the Asia-Pacific Region*e	2			講義			75,70	03	
64	関連	B	休講	The China-Japan-US Trilateral Relations*f	2			講義			75,70	03	
65	関連	B	130G3713	The China-Japan-US Trilateral Relations*f	2	第2学期	火	2	講義	張 雲	国際センター	75,70	03
66	関連	B	休講	アジア経済論II	2			講義			36	04	
67	関連	B	130H3464	環日本海社会論*g	2	第2学期	水	2	講義	蓮田 隆志	人社・教育系(環東アジア)	31	04
68	関連	B	130H5464	環東アジア社会論*g	2	第2学期	水	2	講義	蓮田 隆志	人社・教育系(環東アジア)	31	04
69	関連	B	130A1001	食糧資源問題入門	2	第1学期	金	2	講義	青柳 齊・他	自然科学系(農)	62,64	03
70	関連	B	130A1128	食料資源政策論	2	第2学期	集中	集中	講義	木南 莉莉・他	自然科学系(院自然)	64	05
71	関連	B	130A1006	食料資源経済学	2	第1学期	火	2	講義	木南 莉莉・他	自然科学系(院自然)	64	14
72	関連	B	130A1104	国際フードシステム論	2	第2学期	火	4	講義	木南 莉莉	自然科学系(院自然)	64	04
73	関連	B	130G7023	国際教養演習	2	第1学期	月	2	演習	三浦 淳	人社・教育系(人文)	38	03

新潟大学課題別副専攻「平和学」  
Peace Studies as a Second Concentration, Niigata University

ようこそ「平和学」へ  
新潟大学課題別副専攻「平和学」のページ

戦争だけでなく、貧困、不正、差別、抑圧などもなくすことを目指す平和学

お知らせ

- 2013年度、「平和学」修了認定を希望する1~4年生全員が参加できる3年生向け演習科目「平和学3年次演習」を新規開講します。2013年度入学生から必修になります。しかし、卒業年に履修する「平和学総合演習」の準備に内容で、かつ、「平和学入門」等の履修が高まったモチベーションの維持にも役立つので、2012年度までに入学した学生も積極的に参加(正式履修または履修登録無し)の参加をお勧めします。正式に履修登録して単位を取得する年次は3年次を目安にしますが、他の学年の学生の履修登録・単位取得も認めます。
- また、工学部の技術者倫理に関する科目、人文学部の社会福祉学、農学部の国際的な食糧確保に関する科目、Qコードの「国際教養演習」、法学部の「国際紛争処理法(隔年開講の見込み)を新たに「平和学」科目として指定します。なお、一部の科目をQコード科目に変更し、最終的に「平和学」を修得しない場合にも卒業に必要な単位数に算入されるようにします(コード変更に伴い、科目名がわずかに変わります)。
- 副専攻「平和学」創設の中心になった理学部・赤井純治教授は、2012年度末で定年退職です。同教授が代表を務めて来た「平和を考えるA」は谷本盛光教授(理学部)に、「平和を考える in 新潟」は栗生田雄雄(あおだ)たの助教(農学部)に引き継がれます。
- 高橋敏雄講師の「平和と現代の国際(グローバル)安全保障論」は、4月16日(火)から5月14日(火)までの5回は水曜日に、残りの10回分は、8月ないし9月半に集中講義の形で行います。今年度は、高橋講師が、多くの時間をオーストラリア国立大学での研究に割かなければならぬためです。御了承下さい。
- 副専攻では、4月9日(火)、10日(水)、11日(木)にガイダンスを行います(教務課のチラシはこちら(pdf, 141 KB))。副専攻「平和学」は、それら全てに参加し、説明を行います。なお、9日(火)と11日(木)のガイダンスの内容は同じであり、両方に出る価値はありません。
  - 9日(火)15限、総合教育研究棟 B255教室、「スタートアップ・ガイダンス」(新入生や副専攻これから始めようという学生向け)
  - 10日(水)15限、総合教育研究棟 E260教室、「交流型・エンカレッジガイダンス」(制度について知識のある学生、既に履修を始めたという学生向け)(17:10から17:30に、個別の副専攻について担当教員に相談する時間が設定されています)
  - 11日(木)15限、総合教育研究棟 B355教室、「スタートアップ・ガイダンス」(新入生や副専攻これから始めようという学生向け)
- 副専攻科目(Qコード科目)のシラバスは印刷されず、インターネットでの提供だけです。副専攻「平和学」の全科目のシラバスは、このウェブサイトの「各科目へのリンクのページ」中の「開講番号」をクリックすることで見られます。(2013年度のシラバスで入力済みなのは、2月4日から公開されています。副専攻「平和学」のQコード科目も、ほとんどが既に公開されています。)
- 2013年度の副専攻全体の紹介の冊子は、3月末以降に教務課等で配布されるとともに、教育・学生支援機構のウェブサイトや学務情報システム(「ダウンロード」のページ)に掲載されます。
- 夏学期中講義のうち川島聡先生の「陸軍者の人権」は、8月27日(火)から30日(金)まで、1日目から3日目は2限から5限、4日目は2限から4限を予定しています。但し、変更がないか、掲示等に注意して下さい。同じく夏学期中の連井誠一郎先生「開発と平和」については、開講日時が決まり次第掲示等します。
- 2011年5月24日、課題別副専攻「平和学」オリジナルページにこのページを開設しました。
- 2011年5月24日、課題別副専攻「平和学」科目の「平和と現代の国際(グローバル)安全保障論」の履修者の自覚的発展学習のためのページを開設しました。

「平和」とはなんだろうか？日本に暮らしているこの言葉はあまり気にならないかもしれませんが、しかし、世界では、今の時も、アフガニスタンを含め、しかし、あまり知られていない多くのところで、非常に多くの人々が、国家間の戦争や国内の内戦で命を落とし、傷ついています。第二次世界大戦での死者は5千万とも6千万とも言われますが、その終結の1945年から1995年までの60年間だけで、既に、ラテンアメリカ・カリブ地域で70万人近く、ヨーロッパで13万人近く、中近東・北アフリカで100万人近く、サハラ以南アフリカで420万人余り、中央アジア・南アジアで250万人余り、東南アジア・東アジアでは、朝鮮戦争の300万人、ベトナム戦争の200万人など、1千万人近く亡くなっており、世界で1,800万人余りがなくなりました。



「ベトナム戦争」中の戦闘で破壊された高校 (ベトナム中部、2009年)



戦闘で破壊されたアパート (ボスニア・ヘルツェゴビナのモスタル、2008年)

第2次世界大戦では、アジア・太平洋の諸国民に大きな犠牲を出し、日本でも、非戦闘員を含め300万人以上が死亡するという大変悲惨な経験をしました。その末期に広島と長崎に投じられた核兵器は、核戦争の恐怖を与えています。しかも、核兵器を持つ国が増えてしまいました。今なお、20,000発以上の核兵器が存在し、何人も人類を絶滅できる威力を持っています。昨年から、核のない世界をめざす機運が世界に大きくなってきていますが、この時、核爆国である日本の責務は、大きなものがあります。核廃絶の課題は、平和を考える上での原点の一つです。



国連軍縮会議の新潟(2009年)

戦争のない状態「平和」と考えるひとが多いと思います。しかし、たんに戦争がない状態だけでは「平和」とはいえません。戦争がなくとも、貧困、不正、差別、抑圧などが社会にある限り、人々は安心して暮らすことができません。これは「平和」ではありません。ノルウェーのハン・ガルトゥングは、貧困・差別・抑圧などを「構造的暴力」、直接的暴力だけでなく「構造的暴力もない状態が「平和」なのだ」と定義しました。そして、世界のどこに、そのような構造的暴力が見られます。日本社会にも、貧困が抜け出せない人々、社会的出身や人種・国籍による差別、ジェンダー差別など、構造的暴力が見られます。日本国内にも「平和」でない状況が少なくありません。



脱北者が越える冬の豆満江 (2003年)



まだ深みに水のたまっている 乾季の始まりの川に水を飲みに来た豚の親子(中央)。しかし、住民も同じ水を飲む。(ブルキナファソ、1996年)



校長は父母がボランティアで修理しているが、校長以外の教員の配置されていないマダガスカルの中の小学校(2005年)

課題別副専攻「平和学」  
平和、人権、開発

安全で、みんなが穏やかに暮らせる社会を築いてみよう。



開講科目の履修

課題別副専攻「平和学」では、

- 基礎的課題に関する科目(国際法、国際関係論など)
- 直接的暴力に関する科目(安全保障論など)
- 構造的暴力に関する科目(人権、開発など)
- 地域的課題に関する科目(東アジアなど)
- 実践的課題に関する科目(平和を考える))

を開講して、世界や日本で人びとの平穏な生活が脅かされる状況を直視し、戦争のないことに加えて、人間の尊厳を回復できる国際社会の条件を広い観点から考えます。「平和学」の履修により、世界の人たちのことを自分に関わることで考えられる、21世紀にふさわしい国際人になってもらいたいと願っています。

到達目標

1. 消極的平和を阻害する現状を認識し、その原因を考察できるようになる。
2. 積極的平和を阻害する「構造的暴力」の現状を認識し、その原因を考察できるようになる。
3. 平和・人権・開発問題の相互連関を認識できるようになる。
4. 上記の認識・考察を踏まえ、積極的平和に向けて主体的行動ができるようになる。

履修のしかた

「副専攻」は、各学部の専攻課程に加えて修得することのできる追加的な専攻です。

- どの学部の学生も修得することができます。(但し、現時点では、旭町キャンパスの学生は、物理的に難しい実態があります。)
- 副専攻の修得に、事前の申請等は必要ありません(但し、各科目の履修は毎学期登録して下さい。最終的に卒業時に認定を申請します。かつ、修得は、主専攻課程に対して追加的なものであり、その修得は必須でもありません。そのため、各自が、卒業までの間に自由に修得を試みることができません。なお、就職活動の際のアピールなどに必要な3~4年生には「副専攻履修証明書」を発行します。
  - 副専攻の認定のための手続きの日程は、毎年概ね同じです。2012年度の日程を例として以下に示します。

12月10日(月)から1月17日(木)まで	学期末までに修了要件を満たす見込みの4年生が認定申請書を教務課に提出。
2月16日(木)まで	各副専攻委員会が審査。
2月22日(金)	大学教育委員会副専攻部会が審査。
3月はじめ	全学教育機構部門連絡会議が審査。
3月8日(金)より前	大学教育委員会による認定(最終判断)。
3月8日(金)	副専攻認定者発表(学内掲示板・学務情報システム掲示板)
3月25日(月)	卒業式で副専攻認定証書を授与。

課題別副専攻「平和学」のためのQコード科目は、「平和学」の修得を目指していない学生の履修も歓迎します。

但し、

- 履修希望者が定員を超えるような場合は、「平和学」の修得を目指している学生を優先します。
- また、Qコード科目に必要な単位数に算入するかどうかは、それぞれの学部が決めています。そして、ほとんどの学部で、Qコード科目は卒業に必要な単位数に含めていないと承知しています。この点については、所属する学部の学務係等で確認して下さい。

「平和学入門」(前期月曜)など、「平和学」の履修者の履修は、履修を取りながら履修できます。

これまでの副専攻「平和学」の修了認定者の数と所属学部

年度	人数	認定者の所属学部
2007年度	2	教育人間科学部、法学部
2008年度	1	教育人間科学部
2009年度	1	教育人間科学部
2010年度	2	教育人間科学部、工学部
2011年度	0	(途中放棄)
2012年度	0	(2名(法学部及び経済学部)が申請したが、修了要件を満たさず。)

2010年度までは、入口の必修科目である「平和学入門」の履修者数が2~3名であったので、その履修者のおよ半数が修了認定を得ることになります(副専攻全体では、3分の1程度と言われるので、「平和学」のこの割合は、特に、中核になる専攻課程が無いために「平和学」科目の履修にはかなりの努力が必要な中、高いと言えます。また、2011年度の「平和学入門」の履修者は14名、2012年度の初日の出席者は25名いたので、修了認定者数の大幅な増加が期待されます。(「平和学入門」の履修者数の制限は予定していません。)

なお、本学の毎年の学部卒業生2,300名のうち、およそ半数は、副専攻全体の修了認定要件である「GPA2.5以上」(全履修科目の平均得点75点に相当。)を満たしているため、潜在的には、副専攻修了の可能性のある学生が多いこととなります。GPAの数値を下げる要因は、「途中放棄」の科目が0点として算入されることです。出席してみても履修したい科目ではないと判断した場合には履修取消の認められる期間のうちに判断すること、履修を始めた科目については安易に放棄しないことを心がければ、大半の学生が「GPA2.5以上」の条件を満たしているのではないかと考えます。

これまでの修了ペーパーのテーマ

副専攻「平和学」の修了認定要件の一つに、卒業論文の半分程度の分量の「修了ペーパー」の提出があります。最近合格した修了ペーパーのテーマは次のとおりです。草の根交流が外交官等による公式な交流を上回る国々の間で武力行使が無くなるとする安全保障共同体論(security communities)という、日本ではほとんど知られていない理論(高橋敏雄先生の国際法のリンクを現実の東アジア地域または日中間関係に適用できる内容の家が示されました)もありました。これまでに提出されたペーパーは全て積極的平和に関わるものでしたが、このように、消極的平和に関するものも作成できる可能性があります。

- |        |   |
|--------|---|
| 2009年度 | ・今こそ「行動する力」を養う平和教育を〜「積極的平和」の立場から〜             |
| 2010年度 | ・積極的平和の視点から見る先導国の貧困と教育<br>・「ソーシャル・ビジネス」に関する研究 |
| 2012年度 | ・「Development」概念の考察〜平和学から見た「開発」「発展」〜          |

課題別副専攻「平和学」連絡先

教務課副専攻担当 kyuumu@ge.niigata-u.ac.jp

課題別副専攻「平和学」委員会代表 国際センター宮田春夫教授 miyatah@isc.niigata-u.ac.jp

資料

副専攻プログラム案内冊子2012年度版 (教育・学生支援機構ウェブサイト及び学務情報システムにも掲載されています。)

2012年4月10日の副専攻ガイダンスで配布した資料(pdf, 1.26MB) (副専攻「平和学」のポイントを8頁で紹介)

●各科目へのリンクのページへ

科目一覧と、各科目の履修者の自発的発展学習のためのページ(解説や資料のページ)へのリンク、学務情報システムのシラバスのページ、新潟大学の「研究者総覧」中の各科目担当教員の紹介ページ、担当教員個人のウェブサイトへのリンクもあります。副専攻「平和学」の全科目(Gコード科目及び副専攻「平和学」科目として指定されたその他の科目)の一覧とそれぞれのシラバスを見るのに便利です。

2011年5月24日、課題別副専攻「平和学」科目の を開設しました。 図解によるわかりやすい解説もあります。

●平和学関係リンクのページへ

新規購入図書等のお知らせ

2013年度前期の「平和学入門」他の「平和学」科目に関わる更新推薦図書が中央図書館に新たに入っています(2013年2月28日):

- ・アムネスティ・インターナショナル日本(編)『グアタナマ収容所何が起きているのか 一暴かれるアメリカの「反テロ」戦争』、合同出版、2007年
・アジア・太平洋人権情報センター『アジア・太平洋人権レビュー』現代人文社、1997年版から2011年版
○ 1997 国連人権システムの変動
○ 1998 アジアの社会発展と人権
○ 1999 アジアの文化的価値と人権
○ 2000 アジア・太平洋地域における社会権規約の履行と課題
○ 2001 ドメスティック・バイオレンスに対する取組みと課題
○ 2002 人権主義の実態と差別撤廃に向けた取組み
○ 2003 障害者の権利
○ 2004 企業の社会的責任と人権
○ 2005 国際人権法と国際人道法の交錯
○ 2006 人身売買の撤廃と被害者支援に向けた取組み
○ 2007 人権をどう教えるのか
○ 2008 新たな国際開発の潮流
○ 2009 女性の権利の視点から見る国際結婚
○ 2010 企業の社会的責任と人権の諸相
○ 2011 外国にルーツをもつ子どもたち一思い・制度・展望

2012年度前期の「平和学入門」他の「平和学」科目に関わる更新推薦図書が中央図書館に新たに入っています:

- ・ Emanuel Adler and Michael Barnett (eds.) 『Security Communities』 Cambridge University Press, 1998 (革の根交流が外交官等による公式な交流を上回る国々の間では武力行使がなくなるという安全保障共同体論の基本書籍。和訳はありません。)
・ Keohane, Robert O. and Nye, Joseph S. 『Power and Interdependence』 4th Edition, Longman, 2011 (安全保障共同体論の裏返しでもある、複合的相互依存にある国々の間では、軍事的安全保障が最上位の課題になることなく、多様な課題を巡って多様な主体が交流し、武力で脅して政策を変更させるようなことがないとする複合的相互依存論の教科書の最新版。1977年の初版以来、和訳はありませんでした。漸く2012年8月、ミネルヴァ書房から「パワーと相互依存」として出版されましたが、これは2000年に出た第3版の訳です。第4版では、現代の状況に合わせた細かい修正が多数行われているため、現代の若い読者には理解しやすいと思われるが、論点は、第3版と大きく変わるものではありません。)
・ アマルティア・セン(著)、大野毅(編、東郷えりか(訳)『アイデンティティと暴力: 運命は幻滅である』(原書: Identity and Violence) 勁草書房、2011年(「民族」、宗教、国籍、職業、趣味、卒業校、等々の多様なアイデンティティが同一個人の中にもいくつもある事実と、それを個人的、社会的その他の理由によりその時々で選択している事実を指摘。我々は、色々なアイデンティティを使い分け、多様なアイデンティティの多様なネットワークを更に強化することにより、生活をより豊かにし、また、紛争を避けることができる。)
・ アマルティア・セン(著)、池本幸生(訳)『正義のアイデア』(原書: The Idea of Justice) 明石書店、2011年(人の多様な状況から、理想論で一致するのは難しい。正義論は、そのような理想を論じるのではなく、現実にある見過ごせない不正義人間としての尊厳が確保されていないような生活などの除去等を目指すべきであること、ムラ社会の考え方(parochial)でなく、他の世界の人たちからも広く学び、また、他の世界

の人たちのことも考えること、制度があればそれで十分なのではなく、それが活用されていること、また、制度で捉えられていない規範を含めて考えるべきであること等々、実際にある見過ごせない不正義をなくすことを目指した正義論。

- ・若松良樹『センの正義論—効用と権利の間で』勁草書房、306ページ、2003年
・西川潤・下村泰民・高橋基樹・野田真里(編著)『開発を問い直す: 転換する世界と日本の国際協力』日本評論社、2011年
・松井修徳・川島聡・長瀬修(編著)『開発を問い直す』東洋経済新報社、2011年(「障害者の人権」関係)
・瀬谷ルミ子『職業は武蔵義経』朝日新聞出版、2011年(「平和学入門」関係)
・ジュン・ヒュー・ボリス(著) 林昌宏(訳)『コーヒー、カカオ、コム、綿花、コンゴウの暗黒物語: 生産者を死に追いやるグローバル経済』作品社、2005年(「平和学入門」関係)
・清水元『青年海外協力隊がつくる日本—選考試験、現地活動、帰国後の進路—』創成社、2011年
・Bob Reinalda 『Routledge History of International Organizations』 Routledge 2009
・小田川大典・五野井郁夫・高橋良輔(編)『国際政治哲学』
・重富真一(編著)『アジアの国家とNGO: 15カ国の比較研究』明石書店、2001年
・日本国際ボランティアセンター(JVC)『NGOの時代—平和・共生・自立』めこん、2000年
・峯岡一・竹内進一・笹岡雄一(編)『アフリカから学ぶ』有斐閣、2010年
なお、重田康博『NGOの発展の軌跡: 国際協力NGOの発展とその専門性』明石書店、2005年の購入も予定していましたが、絶版のため入手できずしてました。

「平和学入門」関連で、2011年度には以下の推薦図書が中央図書館に新たに入っています。

- ・田中優・櫻田秀樹、マエキタマヤコ(編)『世界から教さなく30の方法』合同出版、2008年
・ヒューマライティ・ナウ(編)『人権で世界を変えよう30の方法』合同出版、2009年
・モリタリ子『NGOから見る国際関係—グローバル市民社会への視点』法律文化社、2011年5月(2012年度夏)は、この本を教科書として使った集中講義(8月7-10日)を毛利先生に始めて頂きました。先生の御多忙のため、隔年開講を予定しています。)

2012年度に新規開講の毛利聡先生による『NGOから見る国際関係—グローバル市民社会への視点』関連の多数の推薦図書で、絶版でないものは図書館に入っています。在庫情報付推薦図書リストはこちら(pdf, 100KB, 2013年2月26日改訂)

福島在住のルワンダ大産産体験者のKambenga Marie Louiseさん(NPO法人ルワンダの教育を考える会理事長、福島市在住)の著書『空を見上げて—ルワンダの内戦そして希望—』(2010年7月1日発行、自費出版、500円。目次はこちら(pdf, 83KB) (6月27日)

ルワンダの人々の生活、植民地住民どうしを争わせるためにベルギー人が生業区分であったものを「人種」生活で固定した事実、内戦勃発の事情、難民キャンプでの生活、日本でのJICA研修の時や難民キャンプの生活で気づかれた教育の重要性等。
副専攻「平和学」委員会代表・宮田がまとめて取り寄せました。孤児なども受け入れている彼女の学校の運営費になります。希望者はお知らせ下さい。なお、本図書館にも開架し書籍としてあります。
NPO法人ルワンダの教育を考える会の活動等については次のところを見て下さい。そこにある「ウムテョムイザ」学園が、彼女がルワンダに作り、運営している学校です:
http://www.rwanda-npo.org/

新潟大学副専攻プログラムのページ 新潟大学トップページ

新潟大学課題別副専攻「平和学」のページ

戦争だけでなく、貧困、不正、差別、抑圧などもなくすことを目指す平和学

課題別副専攻「平和学」の各科目へのリンク

科目名をクリックすると、その科目の履修者の自発的発展学習のためのページ(解説や資料のページ)になります。

科目番号をクリックすると、学務情報システムのシラバスのページになります(非常勤講師によるQコード科目の担当教員欄には、副専攻「平和学」代表者名(宮田)も現れることがありますが、これは、学務情報システムの設計上、代表者も履修登録者名簿にアクセスできるようにしているところなるもので、実際の担当教員は1人目の方です。)。担当教員名をクリックすると、新潟大学の「研究者総覧」中のその教員の紹介ページになります(非常勤講師の場合は本学の研究者総覧の対象になっていません。但し、他大学のウェブサイトと同様のページがある場合は、そのページにリンクさせています。))。

2013年度は、卒業年次に履修する「平和学修了ペーパー」及び「平和学演習」の準備になる内容で、かつ、「平和学入門」等の履修で高まったモチベーションの維持に役立つものとして、「平和学」修了認定を希望する1-4年生全員が参加できる「平和学3年次演習」を新設します。2013年度入学生から必修とします。4年次必修の「修了ペーパー」の準備になるので、2012年度までの入学生にも履修(履修登録し、単位を修得。 )または参加(履修登録はしないが参加する形。 )を奨励します。

また、工学部の技術者倫理に関する科目、人文学部の社会学部、農学部の国際的な食糧確保に関する科目、Gコードの「国際紛争処理法」、法学部の「国際紛争処理法(福祉学の見込み)を新たに「平和学」科目として指定します。なお、一部の科目をQコード科目からGコード科目に変更し、最終的に「平和学」を修得しない場合にも卒業に必要な単位数に算入されるようになります(その際に、科目名がわずかに変わります)。

副専攻「平和学」創設の中心になった理学部・赤井純治教授は、2012年度末で定年退職です。同教授が代表になって「平和学」を創設するAは谷本盛光教授(理学部)に、「平和学」を創設する in 新潟は栗生田忠雄(あおうだた)助教(農学部)に引き継がれます。

高橋先生による「平和と現代の国際(グローバル)安全保障論」の開講時期は4月18日から5月14日までの5回は通常の火曜4開講し、残りの10回は8月または9月の前半頃に集中講義のような形で行う予定です。2013年度は、先生が前期、後期とも、学期を通して日本にいらっしやる方がない一方、極力集中講義でない形にするほうが学習効果が高いためです。開講時期が確定し次第、学務情報システム、掲示、このウェブサイト等でお知らせします。(3月4日改訂)

副専攻「平和学」の昼休み(HT)のQコード科目は、昼食を取りながら履修してっこうです。

2013年度副専攻「平和学」科目一覧

2013年1月17日時点の学務情報システムのデータに基づいて作成しています。開講時期等が変更になる科目が出る可能性があります。履修登録する際には、学務情報システムで確認して下さい(シラバスは、2月4日から公開されています。但し、未入力のシラバスは、入力されるまで公開されません。)。Qコード科目については、システムにシラバスを入力できるようになったのが遅かった関係で遅れていましたが、3月8日までにほとんどの科目のシラバスを入力し、公開しました。

属性区分 R:必修科目 / \*1:最終年次に履修する / \*2:導入のための科目であり、受講するのが望ましい。
A:選択必修科目 / B:選択科目 / C:展開科目
\*からのもそれぞれの組の科目については、重複履修しても1科目のみを修了に必要な単位数に算入する。
#「平和学3年次演習」は、2013年度入学生から必修。4年次必修の「修了ペーパー」の準備になるので、2012年度までの入学生にも履修(履修登録し、単位を修得。 )または参加(履修登録はしないが参加する形。 )を奨励。
「水準」の十の位が「1」の科目は、特定の学部若しくは学科の学生以外は、原則として履修できないので注意。どうしても履修したい場合、その教員に相談のこと。

Table with columns: 分類, 属性, 開講番号, 授業科目名, 単位数, 学期, 曜限, 形式, 授業担当者, 所属, 分野, 水準, 教室, 備考. It lists various courses like '平和学入門', '平和学3年次演習', '平和学総合演習', etc., with their respective details.

コ	ア	130G0035	障害者の人権	2	第1学期	集中講義	川島 聡	非常勤講師(平和学)	99	04	9月27日(火)から30日(金)の集中講義。1日目は5限、4日目は2限から4限。但し、変更がないか、掲示等に注意して下さい。
コ	ア	130G3237	国際開発協力(環境と開発演習)*a	2	第1学期	木	1	講義 宮田 善夫	99	04	教員ウェブサイト
コ	ア	120G0034	国際開発協力演習(環境と開発)*a	2	第1学期	木	1	演習 宮田 善夫	99	04	教員ウェブサイト
コ	ア	130G3204	比較地域社会学	2	第1学期	木	1	講義 佐藤 康行	75	03	
コ	ア	130S0003	科学・技術と社会	2	第1学期	月	1	講義 宮田 善夫、他	16	03	
コ	ア	130L1801	マス・メディア論	2	第1学期	木	2	講義 西田 和比古	35.38	03	
コ	ア	休講(隔年開講)	アジア経済論1	2	第1学期	木	6	講義 横口 昌己	36	04	
コ	ア	130E1221	アジア経済論1	2	第1学期	金	4	講義 横口 昌己	36	04	
開	連	130L1308	特殊講義(国際組織法)	2	第2学期	金	2	講義 熊谷 暁	34	04	
開	連	130L1609	特殊講義(国際政治史)	2	第2学期	金	3	講義 神田 豊隆	35	03	
開	連	130L1607	特殊講義(比較政治)	2	第1学期	月	2	講義 眞水 康雄	35	03	
開	連	休講(隔年開講)	特殊講義(東アジア国際政治史)	2	第1学期	月	6	講義 眞水 康雄	35	03	
開	連	130H3137	社会学概説D	2	第2学期	月	5	講義 佐藤 康行	38	03	
開	連	130H5237	社会学概説D	2	第2学期	月	5	講義 佐藤 康行	38	03	
開	連	130H3427	現代社会論B	2	第1学期	月	3	講義 佐藤 康行	38	14	
開	連	130H5427	現代社会論B	2	第1学期	月	3	講義 佐藤 康行	38	14	
開	連	休講(隔年開講)	社会学特殊研究D	2	第2学期	水	2	講義 佐藤 康行	38	14	
開	連	130G3216	国際開発協力論:「開発」とは何かI *b	2	第1学期	水	3	講義 宮田 善夫	99	04	教員ウェブサイト
開	連	120G0047	国際開発協力論:「開発」概念I *b	2	第1学期	水	3	講義 宮田 善夫	99	04	教員ウェブサイト
開	連	130G3711	国際開発協力論:「開発」とは何かII *c	2	第2学期	水	3	講義 宮田 善夫	99	04	教員ウェブサイト
開	連	120G0048	国際開発協力論:「開発」概念II *c	2	第2学期	水	3	講義 宮田 善夫	99	04	教員ウェブサイト

新潟大学 平和と現代の国際(グローバル)安全保障論

Peace Studies as a Second Concentration of Undergraduate Study at Niigata University

履修者の自律的發展学習のためのサイト

平和と現代の国際(グローバル)安全保障論

Peace & Contemporary Security Studies

講師 高橋 敏哉 (Toshiya Takahashi)

HOME | 講義内容 | 安全保障論の主要課題の図解 | 実社会での実践に関するリンク集 | 自主学習のための文献

【安全保障論とは】

「国際関係学(国際政治学)」「International Relations」は、第一次世界大戦の終結の後、大戦の惨禍を2度とこの世界にもたらすことのないよう「平和」の課題を担い、1919年に英国のウェールズ大学アベリストウイス(Aberystwyth)校に国際政治の学部が開設されたことからスタートします。その後、オックスフォード大学、LSE(ロンドンスクールオブエコノミクス)、そして北米へと国際関係学の学部の開設が進みます。常にその成立から「戦争と平和」の課題に取り組んできた学術分野です。

この講座で取り上げる「安全保障(Security)」は、20世紀初頭の国際関係学(論)の成立以来、その学問の背景にあった課題の1つが、従来は戦争研究(War Studies)、冷戦時代の戦略研究(Strategic Studies)、平和学(Peace Studies)の1つの分野である紛争研究(Conflict Studies)がその中核を担っていました。「安全保障」自体を直接の研究課題として、本格的に国際関係学の中で1つの学術分野として確立していくのは1980年代以降であり、冷戦後になり大きく開花してきています。

「安全保障」は私達にとってどのようなものなのでしょうか。また国際関係について考えてきた先人達は、戦争を含む「安全保障」の課題にどのようにアプローチし、どのような国際的な制度を作ってきたのでしょうか。そして、現代のグローバル社会の中で、「安全保障」の課題や意味はどのように変わってきたのでしょうか。この講座では国際関係学の基礎を学びながら、その一分野である安全保障論の入門を目指します。講義は皆さんの理解の進度に合わせていきます。どの段階からでも入るよう講義は工夫されていますので、関心をお持ちの方は、学年を問わず肩の力を抜いて参加して下さい。これからのグローバル社会を生き抜いていく皆さんのために、英米の主要大学の国際関係学、安全保障論のスタンダードな内容を取り入れ、海外の研究の最先端にも言及しながら進めます。世界の多くの国の大学で共有されている学問の体系の一端に触れてみて下さい。

学部での学習との関連

●法学部の学習との関連

- 国際政治の背景にある「理論」を学習してみよう。
- 国際政治の分野の1つである「安全保障」を体系的に学習してみよう。

●経済学部の学習との関連

- 国際経済と密接に関わり合う国際関係学を学んでみよう。
- 経済分野と安全保障分野の関わり合い(非伝統的安全保障)を学んでみよう。

●人文学部の学習との関連

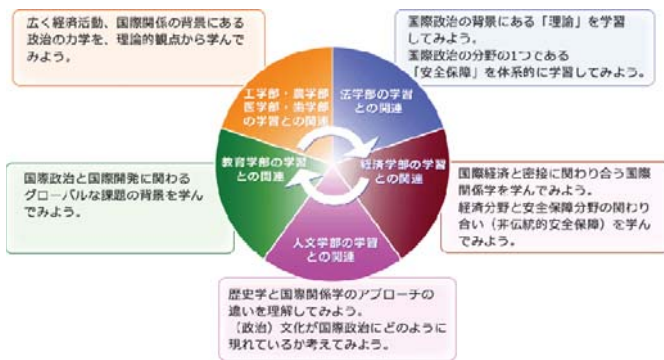
- 歴史学と国際関係学のアプローチの違いを理解してみよう。
- (政治)文化が国際政治にどのように現れているか考えてみよう。

●教育学部の学習との関連

- 国際政治と国際開発に関わるグローバルな課題の背景を学んでみよう。

●工学部・農学部・医学部・歯学部の学習との関連

- 広く経済活動、国際関係の背景にある政治の力学を、理論的観点から学んでみよう。



安全保障論の主要課題の図解のページ

それぞれの課題のページには、「Thinking Points」をつけ、それぞれの課題について更に自分で考えたり、調べたりできるようにしました。

各回の講義のテーマを深く理解することができるようにしています。

2011年度の履修の紹介と各回の復習のポイントと発展学習のためのページ

東社会における実践へのリンクのページ 作成中

自主学習のための文献へのリンクのページ 作成中

履修ポスのページ 作成中

お知らせ

「平和と現代の国際(グローバル)安全保障論」は、これまで前期火曜4限に開講してきましたが、2012年度は、講師の都合により後期の火曜4限に開講します。

2012年3月19日、2012年度シラバスを学務情報システム上で公開しました。

2012年3月14日、サイトのデザインを改良するとともに、内容を拡充しました。

2012年1月11日、図解のページを作りました。

2011年12月1日、各回授業のページの内容を拡充しました。

2011年5月24日、このウェブサイトを開設しました。

新潟大学 新潟大学課題別開講「平和学」のページ

新潟大学副専攻プログラム説明中の「平和学」のページ

「平和と現代の国際(グローバル)安全保障論」シラバス(新潟大学学務情報システム) 2012年3月19日、公開されました。

新潟大学 平和と現代の国際(グローバル)安全保障論

Peace Studies as a Second Concentration of Undergraduate Study at Niigata University

履修者の自律的發展学習のためのサイト

平和と現代の国際(グローバル)安全保障論

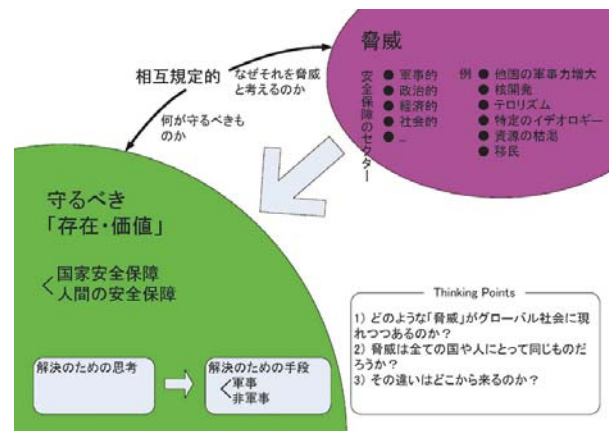
Peace & Contemporary Security Studies

講師 高橋 敏哉 (Toshiya Takahashi)

HOME | 講義内容 | 安全保障論の主要課題の図解 | 実社会での実践に関するリンク集 | 自主学習のための文献 | 履修ポス

安全保障の主要課題の図解

安全保障の枠組み



安全保障論トップページへ	図解のトップページへ	2011年度安全保障論授業のページへ
1 安全保障の枠組み	2 安全保障と政治的役割	3 戦争研究
4 現実主義(リアリズム)の安全保障	5 自由主義(リベラリズム)の安全保障	6 安全保障共同体(Security Community)
7 国際社会論、コンストラクティビズムと安全保障	8 安全保障の戦争と破壊国家	8 『第3種の戦争』と破壊国家
9 人道的介入	10 大量破壊兵器と核不拡散	11 真アジアの安全保障
12 非伝統的安全保障論	13 安全保障と平和	

Copy right Toshiya Takahashi 2012